



ききょうだより

山県市立
美山小学校
第2号
平成31年
4月25日

＝＝＝教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』＝＝＝

新緑が鮮やかになってきました。新学期が始まり3週間程がたちました。どの学年も担任との新鮮な出会いがあり、生き生きと1年をスタートさせています。しかし、スタートダッシュによる心身の疲れも出る時期で、人間関係の歪みも起きやすい時期です。児童一人一人の表情の変化を見逃さないよう留意しています。10連休が迫ってきました。規則正しい生活を心がけたいものです。連休明けに、更に明るい笑顔での登校ができるよう、各家庭で各児童にあわせた配慮をお願いいたします。

安心して生活できる美山小に

美山小を「誰もが安心して生活や勉強ができる学校」にしたい、と繰り返し発信しています。安心して生活できることは当たり前のことではありませんが、その実現は簡単ではありません。年齢や性格、考え方、生育歴等いろいろな児童と一緒に生活します。そのため、つい悪口などで仲間がいやな思いをさせたり、傷つけたりすることがあります。さらに人の集団は、意図的な制約や指導をせず野放しにすれば、必ず一部の人間の身勝手な言動が横行し、弱い立場の人間がつらい思いをします。身体の傷は時間が経てば治りますが、心の傷は簡単には治りません。一生消えないこともあり得ます。

美山小学校は、いろんな場面でそういった身勝手な言動について考えさせ、見て見ぬ振りをしない社会性を育てていきます。そのために、

「偏見・誤解」「世間体」「間違った優越感」「自己中心的な考え方」の4つの視点で児童の言動を観察し、指導していきます。この4つの視点は、誰もがもっており、コントロールする(押さえ込む)営みの継続によってのみ解消できるものです。解消できたように見えても、緩めるとすぐ頭をもたげてくる、人としての弱さと言ってもいいと思います。このことも、繰り返し発信してきました。PTA総会でも再度説明いたします。生意気言うようで恐縮ですが、保護者の方も、ご自分の言動をこの4つの視点から振り返り、発達の段階に合わせてお子さんと話ができる関係を築いてほしいと思います。

美山小では、208人全員がいやな思いをせず、毎日学校に来るのが楽しいと思えるようにするため、一人一人に決意と行動を求めています。今後、高学年児童の決意を掲示するなど

し、定期的に結果を検証することで、いじめを解決し安心して生活できる学校経営に全力を尽くします。

美山小の底力1 佐野先生



学校にとって教師は最大の教育資源です。「教育の質は教師の質を越えない」と言う人もいます。今年度も美山小を支える先生を紹介していきます。

佐野先生はわかば学級の担任、この4月に育児休業から復帰しました。専門は国語です。今年度のわかば学級は、新1年生2名が加わり、6名です。「生活単元」の授業をのぞいてみました。「生活単元」は、各教科・道徳・特別活動を合わせた指導です。この日は、わかば学級前担任の上出先生に手紙を書く学習でした。6年生は、「1年生を迎える会」準備のため不在で、1年生と4年生の4人です。手紙を書く紙は色違いで3種類です。児童が自分で選ぶことで、やる気を引き出し、自己決定力を付けます。4年生は、一人で自分の思いを書いています。1年生は、まだひらがなも習っていないので書けません。佐野先生が個別に児童の思いを聞いてうすい字で書き、児童がそれをなぞるといった具合にすすめていきます。個別の指導やふれあい、できあがっていく手紙を見ていると温かい気持ちになります。児童との信頼関係を大切にしている指導を心がける佐野先生は、美山小の底力になりつつあります。(校長 河村 一彦)

